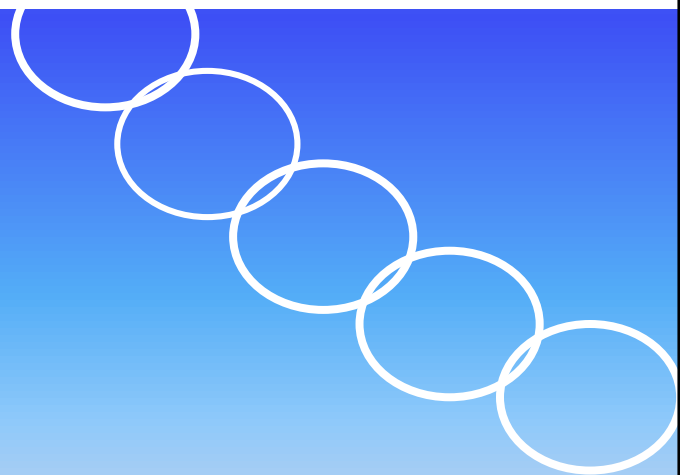


# 2020年3月期第2四半期 決算説明資料



2019年11月12日（火）  
株式会社 **力ネカ**

# 目 次

---

業績概要	1
セグメント別 売上高・営業利益	2
事業概況	3
貸借対照表	7
キャッシュ・フロー計算書	8
業績予想の修正	9

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

# 業績概要

(単位：億円)

	2019年3月期 2Q累計	2020年3月期 2Q累計	増減	
			金額	%
売上高	3,061	2,999	△ 62	△2.0%
営業利益	180	128	△ 52	△28.9%
経常利益	159	97	△ 63	△39.3%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	107	60	△ 46	△43.4%
<b>1株当たり四半期純利益</b>	<b>163.00円</b>	<b>92.70円</b>		

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

- 世界経済は、米中貿易摩擦の激化により、中国のみならず技術的に繋がる世界のサプライチェーンに影響が波及し、また英国EU離脱の混迷や中東における地政学的な緊張感の高まりにより、景気の減速が鮮明になりました
- 当社グループの当第2四半期累計期間（2019年4月～9月）の業績は、アジア・欧州での需要の鈍化、自動車産業やエレクトロニクス産業の低迷および円高影響により、売上高は299,855百万円（前年同期比2.0%減）、営業利益は12,817百万円（前年同期比28.9%減）、経常利益は9,675百万円（前年同期比39.3%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は6,046百万円（前年同期比43.4%減）となりました

# セグメント別 売上高・営業利益

(単位：百万円)

	売上高				営業利益			
	2019年3月期 2Q累計	2020年3月期 2Q累計	増減		2019年3月期 2Q累計	2020年3月期 2Q累計	増減	
			金額	%			金額	%
Material SU	124,391	120,414	△3,976	△3.2%	14,189	10,202	△3,986	△28.1%
Quality of Life SU	78,883	78,911	27	0.0%	7,628	7,583	△44	△0.6%
Health Care SU	23,680	21,957	△1,722	△7.3%	4,673	4,049	△624	△13.4%
Nutrition SU	78,546	78,010	△536	△0.7%	2,173	2,360	187	8.6%
その他	551	561	10	1.8%	258	286	28	10.9%
調整額	-	-	-	-	△ 10,906	△ 11,666	△760	-
計	306,053	299,855	△6,197	△2.0%	18,016	12,817	△5,199	△28.9%

※SU : Solutions Unit

- 上半期の減収・減益の主な要因であったMaterial SUやE & I Technology SVは下半期には潮目が変わり原料事情や為替および海外市場の需要の好転が予見されます。さらに、Health Care SUやNutrition SUも順調に拡大し、下半期は全体として昨年度並みへの回復を見込んでいます

# 事業概況 (Material Solutions Unit)

売上高 1,204億円 (対前年同期  $\Delta 3.2\%$ )

売上高構成比

40.2%

営業利益 102億円 (対前年同期  $\Delta 28.1\%$ )

## Vinyls and Chlor-Alkali

- 塩化ビニル樹脂及び塩ビ系特殊樹脂は、国内不振なるもアジア拡大が続く。アジアの需要は堅調で、下期も拡販が続く
- か性ソーダは市況の低迷はしばらく続くが年明け後に回復予想
- 全体として、下半期の利益は前年並みに回復

## Performance Polymers (MOD)

- 用途の裾野が世界のすみずみに広がっており、そのため世界経済の需要減の影響を強く受けた
- 下期は海外市場の需要は好転し非塩ビ向け販売も拡大する、下半期の利益は前年並みを見込む
- 構造改革を進めるドライビングプロジェクトであるエポキシマスターバッチは需要が拡大しており、旺盛な需要に対応すべく能力増強工事を前倒しで進めている

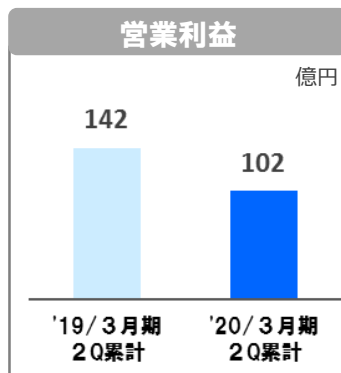
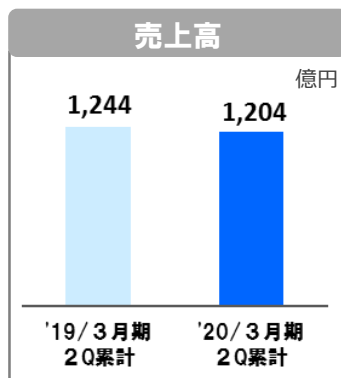
## Performance Polymers (MS)

- 世界の需要拡大が続いており、昨年12月に稼働したベルギーの能力増強設備が収益に大きく貢献した
- このSVのニューフロンティアであるアジアの市場開拓に取り組んでおり、マレーシアの新系列が今後利益を押し上げることを期待する

## 新規事業

- カネカ生分解性ポリマー-PHBH®は、マイクロプラスチック問題のソリューションとして注目されコンビニや化粧品メーカー等で幅広い用途に採用されている。海外大手ブランドホルダーと組んだプロジェクトを鋭意前進させる
- 年末には5,000tプラントが稼働し、今年度中に本格量産プラントの建設を決定する準備中

Material SUの上半期は全体として大幅な減収・減益になったが、下半期については潮目が変わり原料事情や為替および海外市場の需要の好転により昨年並みへの回復を見込んでいる



# 事業概況 (Quality of Life Solutions Unit)

売上高 789億円 (対前年同期 0.0%)

売上高構成比 26.3%

営業利益 76億円 (対前年同期  $\Delta$ 0.6%)

## Performance Fibers

- ・アフリカは市場拡大が続いている
- ・アメリカなど先進国でも高機能頭髮としてのブランド性が高く評価され、新しい需要開拓が進んでいる
- ・下半期も旺盛な需要が更に続くことが予想されることから、新しい需要に応えるべく生産性の向上やデポトルネックによる増産を進めている

## Foam & Residential Techs

- ・本SVは販売価格転嫁を進め、収益が大幅に改善した
- ・発泡ポリオレフィン、短期的には世界的な貿易摩擦の混乱の影響を受け自動車向け販売は減少したが、軽量化ニーズの高まりの中、能力増強や新プロセス導入による事業基盤強化を進めている

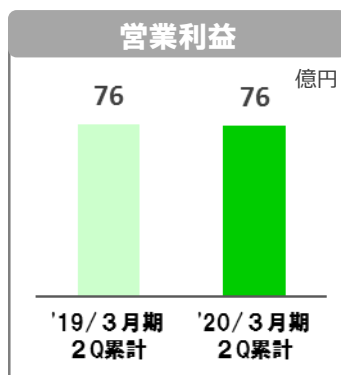
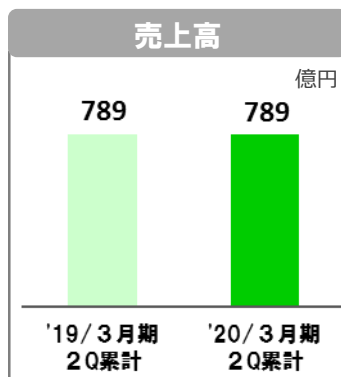
## PV & Energy management

- ・地球温暖化懸念が広がる中、当社の高効率太陽電池の技術的評価やブランド性に対する注目度が高まり、大手ハウスメーカーを中心に販売が堅調に伸びている
- ・壁や窓が発電するユニークな太陽電池が住宅やビルのゼロエネルギー・マネジメント・システム素材として注視され、新製品の増産体制を進めていく
- ・9月セブン-イレブンの再生可能エネルギーによる店舗運営の実証実験へ高効率太陽電池を提供した

## E & I Technology

- ・スマートフォンの市場減速の影響を強く受け、大幅な減収・減益となった
- ・デジタルトランスフォーメーションによるパラダイムシフトが進む中、当社の超耐熱ポリイミドフィルムや超高熱伝導グラファイトシートは、その変化のコア素材であり、今後拡大が見込まれる有機ELディスプレイや5Gスマートフォン向けにユニークな新製品の研究開発、拡販を進める

QOL SUの上半期はスマートフォン市場減速の影響を強く受けたが、FibersやFoam、PVの健闘により業績は前年並みを確保した。下半期はスマートフォン需要の回復は緩やかであるが、他3つのSVは原料事情や為替および海外市場の需要の好転が見込まれ、全体として前年を上回るモメンタムを回復する



# 事業概況 (Health Care Solutions Unit)

売上高 220億円 (対前年同期  $\Delta 7.3\%$ )

売上高構成比

7.3%

営業利益 40億円 (対前年同期  $\Delta 13.4\%$ )

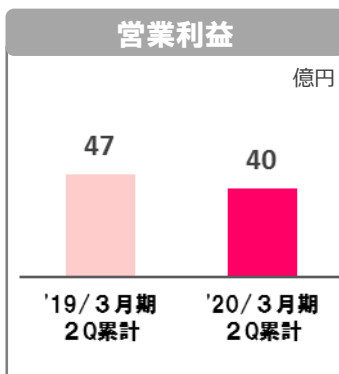
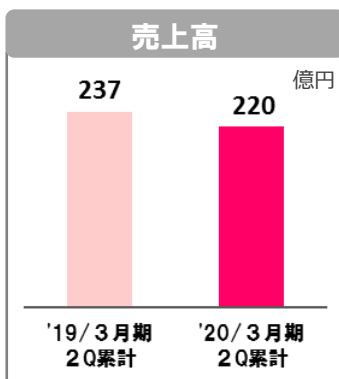
## Medical Devices

- ・高機能バルーンカテーテルや消化器用カテーテルなど新製品が販売拡大を牽引している
- ・下半期には国内外で塞栓コイル新製品発売を計画しており収益拡大に貢献
- ・今後薬剤を塗布したバルーンカテーテルや電極カテーテルに加え、資本業務提携した米国の医療機器会社の血流測定機器など新規医療領域での事業拡大を目指す

## Pharma

- ・低分子医薬は主要顧客への出荷タイミングが下半期に変更になり、当第2四半期は販売量が減少したが、下半期には大きな収益力回復のモメンタムとなる
- ・カネカユーロジェンテック社のバイオ医薬品の販売が堅調に拡大しており、生産能力増強工事完了し、2020年4月に本格稼働予定

Health Care SUの上半期は低分子医薬品の出荷タイミングのずれにより減収・減益となったが、下半期はモメンタムを回復し、増収・増益となる

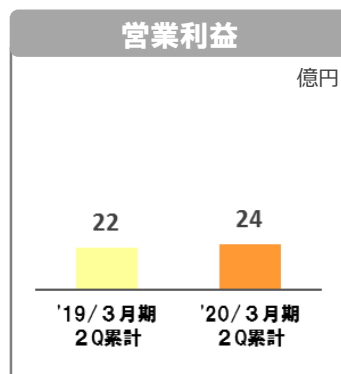
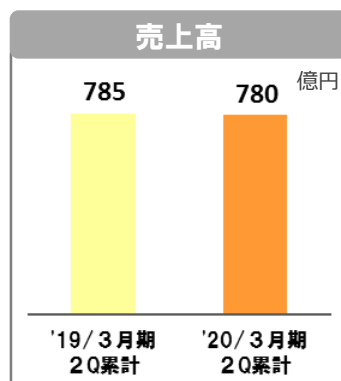


# 事業概況 (Nutrition Solutions Unit)

売上高 780億円 (対前年同期  $\Delta 0.7\%$ )

営業利益 24億円 (対前年同期 8.6%)

売上高構成比 26.0%



## Foods & Agris

- ・大手製パン・コンビニや食品メーカーへの積極的な提案型営業が拡販をドライブし、収益を伸ばしている。食の多様化が進む中、スパイスニーズが拡大しておりカネカサンスパイス製品の新規採用が拡大している。インドネシアはパン・菓子市場が爆発的に拡大しており2020年5月稼働を目指し新工場建設を突貫で進めている
- ・乳製品事業では「パン好きの牛乳」「パン好きのカフェオレ」8月に発売を開始した「ベルギーヨーグルト ピュアナチュラル」は積極的にプロモーションを展開し、好評裏に市場参入を進めている
- ・乳製品の工場建設の検討を急ぐ

## Supplemental Nutrition

- ・引き続きアメリカでの還元型コエンザイムQ10の販売は堅調に推移した
- ・AB-Biotics社の乳酸菌サプリメント素材は、ユニーク性が高く評価されグローバルに販売が拡大している。新しい生産拠点を立ち上げ、グローバル展開のスピードを上げていく

Nutrition SUは世界的な健康意識の高まりを受け新しい市場創出のチャンスが訪れている。上半期は減収・増益であったが、下半期は大幅な増収・増益を見込む



# 貸借対照表

(単位：億円)

	2019年3月末	2019年9月末	増減
<b>資産の部</b>			
流動資産	3,142	2,981	△ 161
固定資産 等	3,453	3,453	△ 0
資産合計	6,596	6,435	△ 161
<b>負債の部</b>			
有利子負債	1,205	1,215	10
その他	1,783	1,648	△ 136
負債合計	2,989	2,863	△ 126
<b>純資産の部</b>			
自己資本	3,370	3,346	△ 24
非支配株主持分 他	237	226	△ 11
純資産合計	3,607	3,572	△ 35
<b>負債、純資産 合計</b>	<b>6,596</b>	<b>6,435</b>	<b>△ 161</b>
<b>自己資本比率</b>	<b>51.1%</b>	<b>52.0%</b>	
<b>1株当たり純資産</b>	<b>5,166.88円</b>	<b>5,129.85円</b>	

- 総資産は、売掛金の減少等により減少
- 負債は、買掛金の減少等により減少
- 純資産は、為替換算調整勘定の減少等により減少

# キャッシュ・フロー計算書

(単位：億円)

	2019年3月期 2Q累計	2020年3月期 2Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	194	162
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 220	△ 209
フリー・キャッシュ・フロー	△ 26	△ 48
財務活動によるキャッシュ・フロー	16	△ 33
現金及び現金同等物の増減額 (含 換算差額、連結の範囲の変更に伴う増減)	△ 10	△ 82
現金及び現金同等物の四半期末残高	464	318

- 営業CFは、純利益や減価償却費等により162億円の収入
- 投資CFは、有形固定資産の取得による支出等により209億円の支出

# 業績予想の修正

- 10月にIMFは2019年世界成長率を金融危機以降で最も低い3.0%へ下方修正しました。したがって当面は世界景気減速による厳しい事業環境が続きます
- しかしながら上半期大幅な減収・減益の要因であったMaterial SUやE & I Technology SVなど当社のユニークな機能性商品群は海外を中心に需要回復が見通されるなか、Performance Fibers SVやHealth Care SUそしてNutrition SUも順調に拡大し、原料事情や為替動向と相まって下半期の収益は昨年並みへの回復を見込んでおります。但し通期ではMaterialを中心として上半期の販売減・利益減の影響が残り、2019年5月14日公表の2020年3月期連結業績予想を修正いたします
- 私たちカネカは化学素材の無限の可能性を引き出し、地球環境問題の解決や人々の健康と活力ある人生、持続可能な社会づくりに貢献してまいります

## <2020年3月期 通期連結業績予想>

(単位：億円)

	2019年3月期	2020年3月期		増減	
	実績	前回予想 (5/14)	修正予想	対前年	対前回予想
売上高	6,210	6,500	6,250	40	△ 250
営業利益	360	400	320	△ 40	△ 80
経常利益	313	350	260	△ 53	△ 90
親会社株主に帰属 する当期純利益	222	230	180	△ 42	△ 50
<b>1株当たり当期純利益</b>	<b>339.15円</b>	<b>354.00円</b>	<b>275.98円</b>		

(注) 2020年3月期第3四半期以降の為替レート、原料価格は、108円/米ドル、120円/ユーロ 国産ナフサ価格40,000円/KLを想定しております。

(注) 当社は、2018年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、1株当たり四半期純利益を算定しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

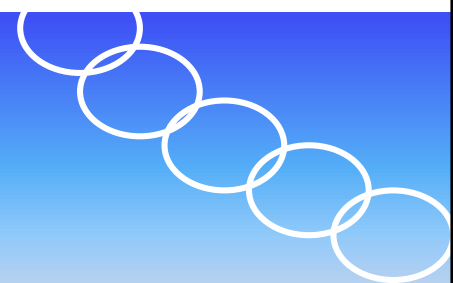
# 業績予想の修正（セグメント別）

（単位：億円）

	売上高					営業利益				
	2019年 3月期	2020年 3月期		増減		2019年 3月期	2020年 3月期		増減	
	実績	前回予想 (5/14)	修正予想	対前年	対前回予想	実績	前回予想 (5/14)	修正予想	対前年	対前回予想
Material SU	2,559	2,670	2,500	△ 59	△ 170	260	265	220	△ 40	△ 45
Quality of Life SU	1,567	1,700	1,630	63	△ 70	151	190	155	4	△ 35
Health Care SU	474	520	500	26	△ 20	106	110	105	△ 1	△ 5
Nutrition SU	1,590	1,600	1,610	20	10	59	65	70	11	5
その他	20	10	10	△ 10	-	15	5	5	△ 10	-
調整額	-	-	-	-	-	△ 230	△ 235	△ 235	△ 5	-
<b>計</b>	<b>6,210</b>	<b>6,500</b>	<b>6,250</b>	<b>40</b>	<b>△ 250</b>	<b>360</b>	<b>400</b>	<b>320</b>	<b>△ 40</b>	<b>△ 80</b>

※SU : Solutions Unit

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。



<IRに関するお問い合わせ>

株式会社 **カネカ**      IR・広報部

TEL : 03-5574-8090